

福祉・介護・健康フェア 2023 in 新潟 への参加

神戸市立科学技術高等学校 空飛ぶ車いす研究会
〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町 1-4-70

助成事業の概要

目的：空飛ぶ車いす活動における車いす整備に関する意見交換と技術の向上

日時：令和 5 年 11 月 25 日（土）

会場：新潟市産業振興センター

内容：

私たちは、使われなくなった車いすを回収し、授業で学んだことを活かしながら、修理・整備作業を行い、アジア諸国で車いすを必要とされる方へ届ける活動をしています。私たちが修理・整備を行った車いすは、輸送ボランティアの方の手によって飛行機等で海外に届けられることから、『空飛ぶ車いす活動』と呼んでいます。普段は学校内で活動を行っていますが、いままで、同じように空飛ぶ車いす活動を行う方との交流を持つことができませんでした。

今回、11 月に新潟市にて行われた『福祉・介護・健康フェア 2023 in 新潟』に参加し、高校生・大学生・社会人の方と一緒に修理活動を行いました。日々の悩みや工夫を教えあい、互いの整備技術が向上することを目標としました。また、自分たちと離れたところでも、同じ志をもって空飛ぶ車いす活動を行っている仲間がいるということを実感し、今後の励みとなることを目指して、活動を行いました。

事業の成果

令和 5 年 11 月 25 日に開催された『福祉・介護・健康フェア 2023 in 新潟』では、空飛ぶ車いす

ブースを設け、車いす整備作業の実演を行いました。本校からは生徒 6 名が参加し、空飛ぶ車いすを応援する会および新潟医療福祉大学・新津工業高等学校の学生と共に約 20 名で整備作業に取り組みました。

修理対象となった 27 台の車椅子は状態が様々で、提供していただいたまま未整備のものや、一度修理がされているものの不十分な個所のある車いすが混在していました。当日は、参加した高校生・大学生・社会人が 3 つのチームに分かれ、それぞれ修理作業に取り組みました。

私たちは持参した工具で、タイヤの交換やブレーキの調整、グリスアップ、介助式車椅子のチルト機構の調整などを他の皆さんと協力・分担して行いました。作業自体は、私たちが学校で日々行っている内容と変わらないので、慣れた手つきで作業を進めることができました。他の皆さんと共に作業を進めると、それぞれ独自の作業の進め方や工具の使い方があり、それらの違いを感じつつ話をしながら共有し、より良い作業方法を考えながら進めることができました。一緒に作業を進めていると、「自分たちにとっては整備できていると思っていた箇所がまだまだ不十分だった」「そういう工具の使い方をすると効率がいいのか！」というように新たな課題に気づいたり、自分たちだけでは改善することのできなかつた課題を解決することができました。

私たちもそうですが、他の皆さんも今回のようにいくつかの学校が集まり、共同で作業をする機会を持つことができなかったため、独自の作業方法・それぞれの判断基準で作業がなされていまし

た。整備をする上ではこれからも安全・安心して車いすを使ってもらえるように気を配る必要があります。車椅子の整備レベルの統一・向上のためにも、このような合同整備会は非常に有効であると感じました。また、大学生から尋ねられることもあり、高校生の私たちにとっては大きな自信につながり、これからの励みになりました。

難しさや楽しさを経験することができました。各校の整備技術や整備方法は様々で、整備技術力を全体的に上げるためにも、今回のような合同整備を行う機会はとても有用であると感じました。今後もこのような合同整備会を定期的に行い、本活動がより一層充実したものとなるよう尽力したいと考えています。

成果の広報・公表

新潟での活動を終え、部活動では新潟にてそれぞれのチームでどのような意見交換をすることができたのかを部内で共有しました。同じ志をもつ仲間と悩みやアイデアを共有できることがこれほど大切だと実感することができました。

今後は、毎年参加をしている『高校生ボランティアアワード』や、他のイベントにおいて今回の報告を行い、空飛ぶ車いす活動を広く世間に知ってもらうための活動を行いたいと考えています。また、整備マニュアルや動画を製作することで今の整備の技術を維持することや、近隣校との合同修理会を行うことで、整備の質を高める活動を行っていきたいと思っています。私たちが整備した車いすに乗られる方が、安心して長く使えるように、今後も努力を続けていきたいと思います。

今後の展開

今回の活動を通して、この空飛ぶ車いす活動のつながりを認識することができた。また、互いに教えあうということはとても良い刺激となり、私たちのモチベーションの向上にもつながりました。高校生にとっては、同じ取り組みをしている高校生・大学生・社会人の方々との交流を通して、より一層この活動の大切さを感じることができ、ボランティアの精神や物を丁寧に扱うことの大切さ、初めて関わる人と共同で物事を進めることの